



存在意識の形

mikatuki98

<存在意識の形>

何かを描きたいと思いながら何も浮んで来ない時
取りとめも無く描くジオメトリック・パターン

四角は無数に存在し 三角も円もまた数に限りは無い
是も無く否も無く ただ手の動くままに
幼児のように目の前の白い画用紙を埋めていく

積み木は多分 幾何学模様との出会い
しかし幼い頃何かを積み上げることの無かった者は
大人になっても平面に並べ続ける
ただ無心に並べ続ける

たとえ技が立体的に見せてもそこは二次元の世界
積み上げることなく並べてゆく感覚

それで何かが癒されているのだろうか
きっとそんなことも考えることなく
ひたすら並べ続けるだけなのだろう

のちに現われた姿が
自らの存在を意識させる形となる